

Rogue Wave Serverトレーニング

トレーニングの目的

- Rogue Wave Server の概念と強みを理解する
- Rogue Wave Server を使った多数の C++ GUI コンポーネントの同期管理手法を修得する
- Rogue Wave Views と Server の機能をより深く理解し、大規模な管理／監視システムの開発のノウハウを得る

受講にあたって

- C++ を使ったプログラミング経験が必須となります
- Rogue Wave Views トレーニングコースの修了、またはそれに相当する Rogue Wave Views に関する知識および使用経験をお持ちであることが前提です

トレーニングスケジュール

- 5日間のオンサイト／ハンズオントレーニングコース
- 午前9時から午後5時まで
- 5名様までの参加を想定（6名様以上の場合は追加費用を申し受けます）

トレーニング内容

[1日目]	イントロダクション	
	Rogue Wave Serverの概要	- モデリングサービス - 通知サービス - Rogue Wave Server を利用するメリット
	Rogue Wave Server のクラス	- スマートポインタ
	Lab1: ステップ1	
	Rogue Wave Server のクラス (続き)	- クラスのモデリング - テンプレート - デイクシヨナリー
	Lab1: ステップ2	
	オブジェクトの関係	- OWNS と USES - N-ary (1対多) の関係とリスト
	Lab1: ステップ3	
	オブジェクトの関係 (続き)	- 逆参照
	Lab1: ステップ4	
	Cut 関数	
	Lab1: ステップ5	
[2日目]	データメンバ	- エントリーデータメンバ - 派生 (ドライブド) データメンバ
	Lab1: ステップ6	
	ビューサービス	- 概念 - 静的および動的ビュー
	Lab1: ステップ7	
	インタラクションサイクル	
	動的ビューの種類	
	Views データアクセスの統合	
	Server Studio	
	ランタイムアクセス	
	ビューサーバ	
	CORBA の利用	
	Lab1: ステップ1	

[3日目]	レプリゼンテーションモデル	
	レプリゼンテーションのデザイン	
	動的ビューのデザイン	
	参照 (リファレンス)	
	Lab2: ステップ 2	
	ハイパー・リファレンス	
	レプリゼンテーションの状態	
	コレクタ	
	Lab2: ステップ 3	
	分散コンポーネントの実装	
	ビューサーバへの接続	
	ビューを開く	
	Lab3: ステップ 1-1	
	レプリゼンテーションモデルの実装	- ガイドライン - 手順 - アトリビュート - 生成

[4日目]	トランザクションサービス	
	Lab3: ステップ 1-3	
	サーバオブジェクトのコールバック	
	高度な機能	- ユーザー定義のデータタイプとその利用
	Lab3: ステップ 2-1・2-2	
	ユーザータイプの実装とサブクラス化	
	Lab3: ステップ 2-3	
	(オプション) Lab3: ステップ 2-4・2-5	

[5日目]	データアクセスのマッピング	- 概念 - Server Studio - データアクセスのデータソース
	Lab4: ステップ 1 から 3	
	サーバ/データアクセスコンポーネント	
	ユーザータイプの取り扱い	
	マッピングの拡張	
	JScript	
	Lab4: ステップ 4 から 6	
	高度な機能	- Multiple-Row テーブル
	まとめ	- 質疑応答 - 講師とのディスカッション

備考

- 実習には別途説明資料をご用意いたします
- ご希望により、より実習を重視した内容とすることも可能です

以上